

# Art and Calligraphy of the Bonbori Lantern: Birth of the Bonbori Festival 1938-1955

特別展

BONBORI  
ぼんぼり  
雪洞

ぼんぼり祭の誕生  
1938-1955

令和元年8月1日(木)～8月25日(日)

開館時間：午前10時～午後4時30分

(入館は閉館30分前まで／8月7日～9日は午後6時まで開館)

休館日：月曜日(ただし8月12日は開館)

観覧料：一般300円／小中学生100円 障がい者手帳をお持ちの方と介添者1名は無料

主催：鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム



伊東深水 太田水穂 尾上多賀之丞 岡本太郎 小倉遊亀 小津安二郎 片岡球子  
鏑木清方 川端康成 北大路魯山人 久米正雄 佐田啓二 里見 弴 清水 崑  
鈴木大拙 高濱虚子 高見 順 高峰三枝子 武原はん 田中絹代 鳥海青児  
永井龍男 長谷川如是閑 星野立子 三好達治 村山知義 横山隆一 吉屋信子



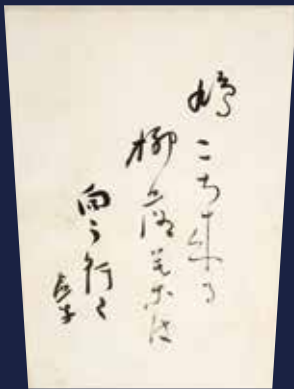
鎌倉文華館  
鶴岡ミュージアム  
Tsurugaoka Museum, Kamakura



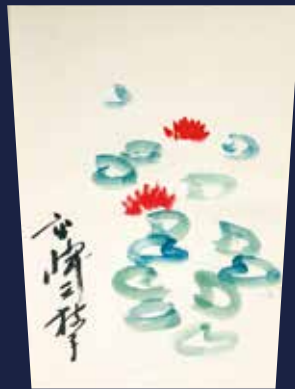
立秋の前日より8月9日までの期間、鶴岡八幡宮では「ぼんぼり祭」が開催されます。今年で81回目を迎えるこの祭りでは、鎌倉近在の諸名士たちによって揮毫された書画が雪洞に仕立てられます。宵時に、巫女が雪洞に灯を入れると、境内は幻想的な雰囲気になります。

今日では鎌倉の夏の風物詩とされるぼんぼり祭。1938年(昭和13年)

に祭りがはじまった当時は、鎌倉在住の文士たちを中心に揮毫された書画は150点ほどでした。近年では、毎年400点ほどの書画が奉納されます。約80年の歴史の中で、これまでに揮毫された原画は20,000点を超えます。本展では祭りの誕生から近年に至るまでの歴史を、それぞれの世相を反映した雪洞作品から回顧いたします。



1938年:高濱虚子



1941年:高峰三枝子



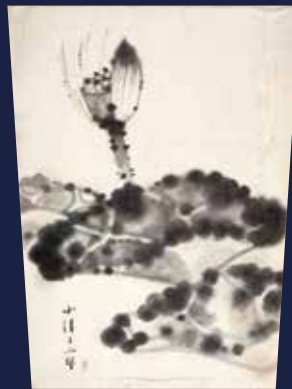
1954年:高島華穂



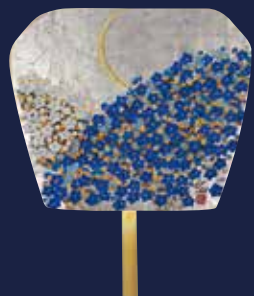
1940年:小倉遊亀



1941年:野村光一



1955年:小津安二郎



2001年:平松礼二



2009年:岡 信孝



## 鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53 TEL:0467-55-9030

<https://tsurugaokamuseum.jp/>

- JR横須賀線、江ノ島電鉄線「鎌倉駅」下車 徒歩10分
- 当館には駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

### 第1章 はじまり (1938-1940)

夏の鎌倉は多くの海水浴客で賑わいましたが、一方で神社仏閣を訪れる観光客は少なく閑散としていました。そこで文化的な夏の鎌倉を楽しんでいただきたいとの思いから、鎌倉文士等の協力を仰ぎ、立秋の前日に鶴岡八幡宮で行われる夏越祭という古式祓いの祭事の時期にあわせて、この「ぼんぼり祭」がはじまりました。ここでは戦前に揮毫された書画をご紹介します。

### 第2章 戦争の時代 (1941-1945)

戦時中、紙の配給が限られていた時代にも、ぼんぼり祭には多くの書画が揮毫されました。1945年の終戦直前には、雪洞に灯を入れることが禁じられたため、色紙や短冊の作品が揮毫されました。ここでは短冊を含む戦時中の作品をご紹介します。

### 第3章 復興の光 (1946-1955)

戦後もぼんぼり祭にはたくさんの書画が揮毫され、今日に至ります。鎌倉文士や、画家、研究者といった名士だけでなく、漫画家や大船の松竹撮影所に入出入りしていた芸能関係者などバラエティ豊かな揮毫者によって、書画が奉納されました。ここでは終戦後から1955年までの作品をご紹介します。

### 第4章 ぼんぼり祭のいま

ぼんぼり祭では毎年各界の著名人に揮毫いただいた書画をもとに、うちわを制作しております。ここでは、近年に制作されたうちわや、うちわ絵の原画をご紹介します。

関連イベントについては、  
当館ウェブサイトをご覧ください。

過去のぼんぼり祭で制作した  
うちわの復刻版を、  
ミュージアムショップで  
販売いたします。  
どの作品が復刻されるか  
お楽しみに!